

調査レポート

令和3年12月期景気見通し調査

～新型コロナウイルス感染者数の減少で改善に向かうも先行きの不安は続く～

調査概要

- 調査時期
令和3年11月29日(月)～12月7日(火)
- 調査方法
FAX・Googleフォームからの回答受付
- 調査対象
会員小規模事業所2275件
- 回答数
484件(回答率21.3%)
- D-I値とは
ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景気動向を示す指標。「良い」「上昇した」とする割合から「悪い」「下落した」とする割合を差し引いたもの。

業界・自社の景況

業界の景況は、現在D-I値が▲41.2と前回調査時(令和3年9月期)から13.4ポイント改善し、新型コロナウイルス禍前の水準にまで戻った。一方で、先行D-I値は4.2ポイント下落し、予測を許さない状況が続く見通しとなった(グラフ1)。

自社の景況は、現在D-I値が前回から9.7ポイント改善するも、先行D-I値は6.9ポイント下落し、悪化の見通しとなった。この背景には、後述する仕入価格の上昇、新型コロナウイルスの感染再拡大に対する不安がある」と推察される。

販売価格

販売価格の現在D-I値は、5.2と前回から8.2ポイント回復し、7期ぶりにプラス値に転じると共に、新型コロナウイルス禍前の水準を超えた。これは、仕入価格の上昇に対して、販売価格を引き上げざるを得なかったことも要因と考えられる(グラフ2)。

仕入価格

仕入価格の現在D-I値は、▲57.8と3期連続で悪化し、過去10年間で最も低い値となった(グラフ3)。また、先行D-I値は▲58.3となり、今後も仕入価格は悪化が続く見通しとなった。業種別にみると、製造業では現在D-I値が▲75.0で前回から17.6ポイント下落した。

業種	前回調査との比較				
	業界の景況	自社の景況	売上高	販売価格	仕入価格
全業種	▲	▲	▲	▲	▲
製造業	▲	▲	▲	▲	▲
建設業	▲	▲	▲	▲	▲
小売業	▲	▲	▲	▲	▲
卸売業	▲	▲	▲	▲	▲
サービス業	▲	▲	▲	▲	▲

※青の矢印は改善を、赤の矢印は悪化を、白の矢印は維持を表している。

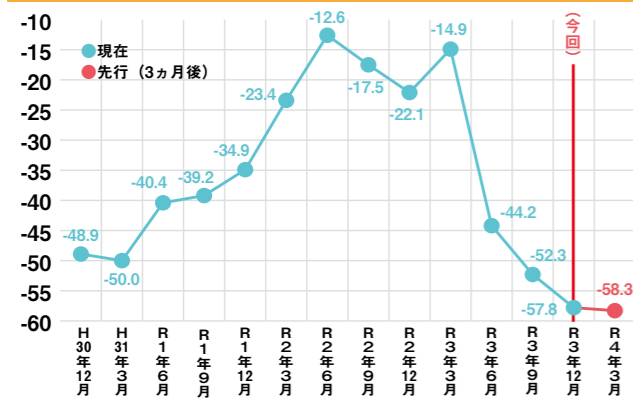
経営上の課題

経営課題(外的要因)では、「原材料の高騰」を挙げる回答が52.3%と最も多く、令和3年6月期調査で急増してから、3期連続のポイント増加となった。一方で、「新型コロナウイルスの影響」を挙げる回答は、令和2年3月期調査から7期連続で最多の回答であったが、今回は前回から16.7ポイントの大幅減少となり、課題の移り変わりが見られた(グラフ4)。

特別調査「2022年の景気予想と重点的に取り組みたいことについて」

新型コロナウイルスの影響が長期化する中、2022年の福井県内の景気予想について調査した。「景気は変わらない」が57.7%で最も多く、次いで「景気は悪くなる」が29.7%、「景気は良くなる」は12.6%に止まった(グラフ5)。1年前の令和2年12月期調査と比較すると、「景気は悪くなる」との回答が39.3ポイントの大幅な減少となり、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展などからこの1年間で状況が一変したことが見てとれる結果となった。しかし、全ての業種において「景

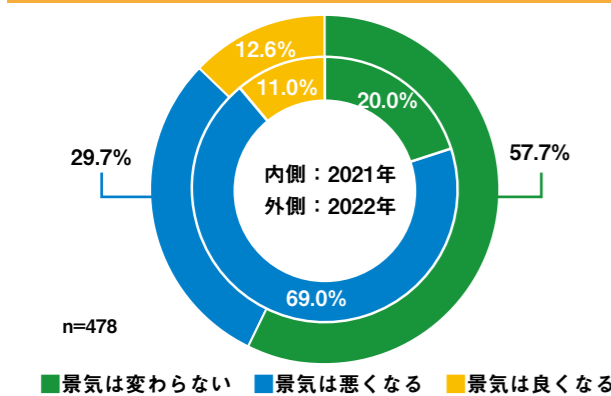
グラフ3 仕入価格



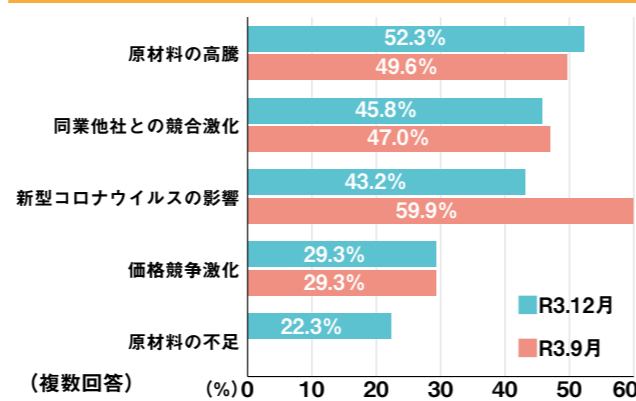
気は変わらない」とする回答が半数以上を占めており、コロナ禍の長期化を警戒する慎重な見方も窺えた。

また、2022年に重点的に取り組むたいことを尋ねたところ、「新規顧客開拓」が54.3%で最も多く、次いで、「人材育成・採用強化」が40.6%となり、「回答企業から経営課題(内的要因)」として多く挙げられた内容について取り組みたい姿勢がみられた。その他、コロナ禍における借入金金の増加や、資金繰りの悪化の影響から「資金繰りの安定化」、「コスト削減の強化」も取り組みたい内容として多く挙げられた。

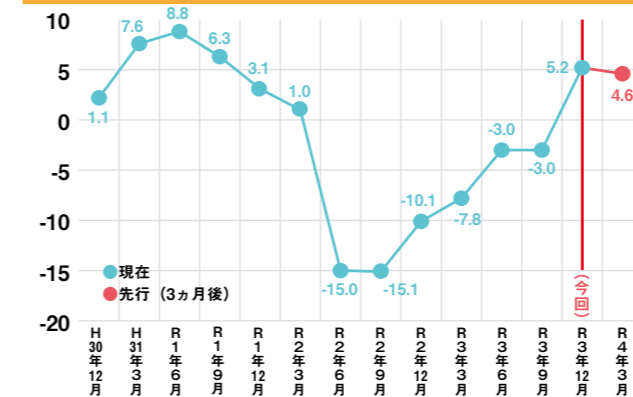
グラフ5 2022年の福井県内の景気予想



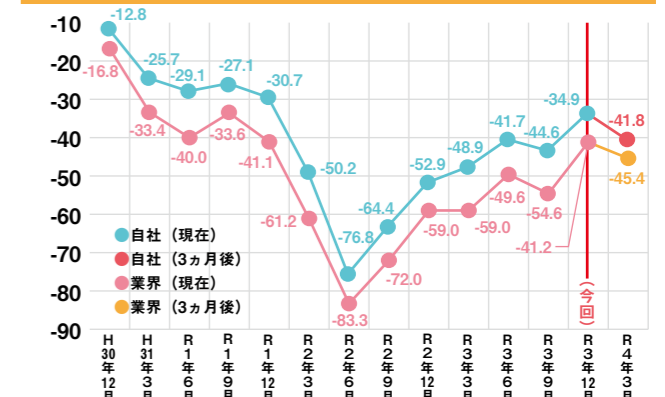
グラフ4 経営上の課題(外的要因)上位5位



グラフ2 販売価格



グラフ1 業界・自社の景況



お問い合わせ

福井商工会議所 金融・会計相談課

0776-33-8284

詳細については
二次元コードより
ご覧ください

グラフ6 2022年に重点的に取り組みたいこと 上位7位

